

新古改撰誌記

卷之十八

天保度減方書類

御改革ニ付減方被仰渡其外申上御用留并辰年炎上之節焼失并
損物申上覚

(朱書)
「五百五拾八」

卯十二月十五日於柳之間桜井庄兵衛殿・中川勘三郎殿・松平四郎
殿・坂井右近殿より御書付写四通添御達し

一、今般御勝手向之義ニ付厚被 仰出候御書面之趣銘々心力を尽し
向々限り十分ニ取調可被申出候、万一未熟之義并彼是傍儀いたし
候もの於有之ハ嚴重之取扱ニ可及候、如斯御時節銘々忠義厚薄
も相頭候義、殊ニ当御場所之義者諸向見合ニも相成候間、一日も
早く取調可申上事ニ而其向頭々支配寄合いたし来ル廿日限取調
可被申出候

但支配向末々ニ到迄心附候向有之候ハ、聊無遠慮頭々江可被
申出候

右之趣不洩様可被申渡候

十二月

桜井庄兵衛
中川勘三郎
松平四郎
坂井右近

御勝手向之儀今般 御直ニ被 仰出候趣も有之、去々丑年以來
御入用格別相減候向も候得共、未御入用高御收納之凡一倍ニ相
当所詮此儘ニ而者御暮方難立候間、此後 御自身之上者御不自由
を不被為 厭永世之御主法被立置度との御事ニ候、右様至篤之
思召を奉伺一同深く恐入候次第ニ付、諸役人中を始末々之者ニ
至迄其旨厚く相心得、一日も早く 御安心相成候様銘々其役所
限り享保・寛政ニ復古いたし、去寅年御入用高半減ヲ以來辰年よ
り御取賄可被相立候、右ニ付省略方之義ハ十分ニ取調当年中を限
り可被差出候

十二月

右之趣不洩様向々江早々可被相触候

馬喰町御用屋敷取扱御貸附金之内、拝借後利納五ヶ年ニ不至分
ハ五ヶ年納済之上此度之御主法ニ可被成下旨先達而相達置候得
共、右之分共去寅年を限り半高棄捐、残り半高無利足年割上納之
積り被 仰出候事

一、惣鉢半高棄捐被成下候ニ付、向後納方之義も右ニ付是迄之可為半
減事

右之通被 仰出候間已来不納ニ不相成候、猶委細之儀者戸川播磨
守・榊原主計頭・佐々木脩輔可被談候

十二月

右之趣向々江可被相触候

近年已来諸向追々及困窮可為難儀ニ付品々御世話も有之候得共、累年借財多之輩容易ニ勝手向取直出来兼候哉ニ付、今般為御救厚キ思召ヲ以公儀諸御貸附御仕法替之上、藏宿貸出金年賦濟方被仰出候処、世上金銀出入も元来相對貸借ニ候上者取上裁許ニも不及事ニ候間、只今迄之分此節を限り裁許不申付、自今貸出候分者前々之通取上可及裁許候、勿論買掛、諸職人作料・手間賃等ニ至迄同断之事

但只今迄取上裁許日限等申付置候分も向後濟方奉行所ニ而取扱致間敷候

一、金銀利足之義ハ去寅年相触候通相心得、世上融通方第一ニ心懸ケ諸国共無差支実意ニ貸借可致、右利足之外品々名目を附多分之雜費取候儀決而致間敷事

一、金銀貸借之儀年古キ儀ニ而も相互ニ実意を以對談いたし候ハ、容易ニ出訴裁許受候ニも不及、右ハ双方不実より多くハ猥ニ出訴および候儀相聞候、此度相對濟被仰出候上者諸事寛政九巳年金銀出入之義ニ付相達候通り厚く相守実意を尽し取引可致候、奉行所へ出訴不相成を見込棄捐可致杯与心得、又ハ慾心を以事を巧ミ出入および、或者利徳ニ而已拘り候出訴之類者何れも不埒ニ付吟味之上急度可申付事

一、已来濟方可申付分申渡之金高不足いたし毎度不束ニ候者糺之上急度可及沙汰候事

右之趣在町共可被相触候事

十二月

御藏米取之面々勝手向為御救、藏宿共よりは是迄之借入金ハ新古之無差別当冬御切米後証文書替之節を限り無利足年賦濟ニ被成下候事

一、右年賦濟方者高百俵ニ付当借百両已上ハ一ヶ年金五両ツ、同百両以下ハ元金高之五分ヲ以濟方可致、且年賦金之分ハ百俵ニ付別段金壹両式分ツ、之割合ヲ以三季御切米・御借米之節々濟方勘定可相立候事

但向後借方之義も是迄通り無差支藏宿迄可致對談事

一、御扶持方米是迄借越候分ハ当冬張紙直段三十六両之積を以金ニ直し、当十月を限り借金高ニ結ひ濟方可致事

一、昨年中於猿屋町会所利安之御貸附被仰出、追々御貸渡有之候得共右貸附者已来相止候、尤是迄御貸渡有之分ハ藏宿共より借入金与一束ニいたし百俵ニ付金五両ツ、之割合ヲ以無利足年賦被成下候事

右之通被仰出候間御旗本・御家人共可成丈借金高不相増様一統厚く心掛ケ、別而質素儉約可相守候、右様厚被仰出も有之候儀ニ付此後心得違右之御主意不相守候者も有之候ハ、急度御沙汰之品も可有之候

右之趣向々江可相触候事

十二月

五役頭江

今般御勝手向之義并厚被 仰出候御書付之趣銘々心力を尽し向々限り十分ニ取調可被申出候、万一未熟之儀并彼是傍儀等いたし候者於有之者嚴重之取扱ニ可及候、如斯御時節銘々忠義厚薄も相頭候儀殊ニ当御場所之儀ハ諸向見合ニも相成候間、一日も早く取調可申上事ニ付其向頭々支配寄合いたし、来ル廿日限取調可被申出候

但支配向末々ニ至迄心付候向有之候ハ、聊無遠慮頭江可被申出候

右之趣不洩様可被申渡旨御本丸ニ而申渡、西丸之儀も御同様御入用筋之義者勿論、其外面々心附候儀者聊も無遠慮取調、来ル廿五日限申出候様西丸支配向并御番所向・御廐向迄も可被申渡候
十二月
林 内蔵頭
永井真之丞

五役頭江

御中間頭 差出候内
御小人頭

例年十二月定式請取高之内

右大將様

一、熨斗目小袖御先練之者着候分

但綿代共

一、綾縮小袖 御中間 組頭着候分
御小人

右者享保・寛政之御例ニ茂無之、御 例ヲ以被下置候儀、当時者

紅葉山 御宮江 御参詣ニ付被下候儀故、来辰年より 御本丸

御分ハ隔年被下置候積を以 右大將様御分者五ヶ年目御断差

出可申候

一、例年六月十二日定式請取高之内

一、茶縮緬拾羽織 御中間 組頭着候分
御小人

一、黒加賀絹拾羽織 御本丸 御中間目付 御小人目付
御中間目付 御小人目付
御中間押 御小人押

右之者着候分雨天之節ハ格別之御手当金も被下置候儀ニ付、来辰年より暮計被下置、六月之分者不被下置候事

例年十二月定式御中間方・御小人方御番所々々江損引替積り請取候分

一、手桶 一、搔器 一、次棕櫚簪

右ハ隔年ニ御断差出新規請取可申、若差支之儀も有之候ハ、右三品ニも不限組々入用手当等可被致候、且勤筋極難渋之御番所江者乍少分も組々より手当いたし御取賄專要心附候様頭々より

厚可被申渡候

一、濡御手当金之義ハ前々御成之節之御行列御供建之内 御前辺傘

不相用者共江被下置候訳柄、右故厚相心得諸事寛政度以来振合ヲ以、御城内外遠 御成之節々出方人数高取極被申聞置御入用

筋ニ相拘候儀不取締無之様可被致候

右之趣五役頭共より組之者江可被申渡候

一、今般被 仰出候御趣意之趣厚相心得、五役頭々より取調被差出候分者諸向江引合取扱急々仕兼候間、前文御中間・御小人之廉ニ

而相減候趣ヲ以其向限省略いたし候様取調可被申聞候

右之趣西丸御目付中江も申談之上相達申候事

卯十二月

右之通庄兵衛殿御達、依之明廿二日中小惣出之上猶以相談いたし候事

主膳正殿

隼之助殿

此度御勝手向御改正御取締之義 御直ニも被 仰出候儀ニ付、
万一御趣意柄心得違候敷又ハ未熟之儀有之、且ハ不平之者忤有
之おゐてハ嚴重之御沙汰も可有之、右等之儀ハ常々銘々忠勤之
厚薄も相顕候、御時節故善惡共御勝手懸り御目付より可申立旨
御目付江申渡候間可被得其意候

右之趣万石已下御役人面々江可被相触候

十二月

一、今日取調出来候帳面庄兵衛殿差出候处、濡御手当取調之儀明日
中被仰渡候得共御猶予申上候得ハ、明後廿四日迄ニ差出候様被
仰聞候間荒井氏江も申談、明日同人方江寄合候間御出張可被下
候

主膳正殿

隼之助殿

此度札差共貸金無利足年賦ハ被 仰出候处、猶又猿屋町会所ニ
おゐて、寛政度之振合ニ准し御下ケ金被成下新規拝借可被 仰
出候間、御蔵米取之面々用弁向是迄之通無差支様可致候、万一
右之趣を心得違ひいたし、双方共不法之及対談候ハ、急度可
有御沙汰旨札差共江申渡候

右之趣万石已下之面々江寄々可被相触候

十二月

大炊頭殿

隼之助殿

札差共貸出金年賦濟方仕法御改正被 仰出候ニ付、右年賦引分
方等入組候儀も有之候ハ、浅草猿屋町会所江懸り御勘定方差
遣仕法通り及差図候様申渡置候儀ニ付、難相分儀ハ一統疑惑無
之様勝手次第右会所江問合可申旨、向々頭々支配江申達候様可
被致候事

右之趣万石已下御役人之面々江可被相触候事

月

一、於柳之間御目付衆御一同御出席庄兵衛殿被仰渡候趣
今般御主法替被 仰出候ニ付而者厚被 仰渡候趣も有之、是迄
年々定式被下物并御番所々々江請取候物も半減之積、一統江も
申談之上取調差出候儀ニ而、聊異存之者有之間敷なれとも、
万一難渋之者も有之候ハ、可申立旨被 仰渡候ニ付、本文異存
申上候者無之旨御請申上候通り之事
勿論彼是与申咄等も被致間敷候

右被仰渡之趣一同異失無之様、猶此上精勤可被致候事

卯十二月

御中間方役々并御番所向年々

定式請取物減方之儀申上候書付

辰二月三日主膳正殿御渡御書取

覚

別冊之内両丸御中間目付・御中間江被下候黒絹單羽織之義者寛政度被下高ニ見合、去々寅十二月請取高相増居候ハ、追々減切ニいたし、其余之箇条者伺之通相心得可被取計候、且西丸御用之分熨斗目外一品之義者追而両山 御参詣被 仰出候ハ、隔年ニ為受取度趣者承置候事

御書取之通相心得可申旨被仰渡奉承知候
組之者共江可申渡置候

二月三日

御中間頭

三名

御書面之趣御別紙御書取之通相心得可申旨、被仰渡奉承知候

二月三日

御中間頭

三名

御中間方役々并御番所向年々定式請取物之儀減方朱書ニ相認左ニ申上候

例年六月請取候内

御中間御供組頭

一、茶縮緬拾羽織

五ツ

五人

但紐共

(朱書)

「右縮緬長崎より調進ニ付御入用相立不申候、若調進無之候節者

別段御買上直段

壺ツニ付

代金壺両式分式朱

染裁合紐共

壺ツニ付

代銀四匁八分四厘

右

茶縮緬拾羽織

五ツ

代金八両式朱ト銀式拾四匁分

減之分

「

御中間目付

一、黒加賀絹拾羽織

五拾八

五拾八人

但過人式人見習勤之者六人有之候ニ付八ツ相増申候

(朱書)

「壺ツニ付

代銀三拾四匁六分八厘

右

黒加賀絹拾羽織

五拾八

代銀貳貫拾壺匁四分四厘

減之分

「

御中間押

拾三人

一、黒加賀絹拾羽織

拾三

(朱書)

「壺ツニ付

代銀同断

右

同断

代銀四百五拾匁八分四厘

減之分

「

一、日野黒絹単羽織 八拾三

御中間
御供方

内天保九戌年十二月過人廿人被 仰付候ニ付貳拾相増候処、追

々御人少ニ付拾相減候旨ニ而、請取候分已来七拾三宛請取候積

(朱書)

「右減候

日野黒絹単羽織 拾

壹ツニ付

代銀拾八匁三分五厘

此代銀百八拾三匁五分

減之分」

西丸御用

同断六月請取候

西丸

御中間目付

一、黒加賀絹拾羽織

貳拾六

貳拾六人

但見習勤之者八人有之候ニ付八ツ相増申候

(朱書)

「壹ツニ付

代銀三拾四匁六分八厘

右

黒加賀絹拾羽織

貳拾六

代銀九百壹匁六分八厘

減之分」

御中間

一、日野黒絹単羽織

廿貳

貳拾貳人

右者毎年六月定式御細工所より請取候分

例年十二月請取候

一、茶縮緬拾羽織

五ツ

但紐共

中間御供組頭

五人

御中間目付

一、黒加賀絹拾羽織

五拾八

但過人貳人・見習勤之者六人有之候ニ付八ツ相増申候

御中間押

一、黒加賀絹拾羽織 拾三

拾三人

御中間

一、日野黒絹単羽織

百八

御供方

内天保九戌年十二月過人貳拾人被 仰付候ニ付貳拾相増候処、

追々御人少ニ付拾貳減候旨ニ而請取候分已来九拾八宛請取候積

(朱書)

「右減候

日野黒絹単羽織

拾

壹ツニ付

代銀拾八匁三分五厘

此代銀百八拾三匁五分

減之分」

西丸御用

同断十二月請取候

御中間御供組頭

一、茶縮緬拾羽織

壹

壹人

但紐共

西丸

御中間目付

一、黒加賀絹拾羽織

貳拾六

貳拾六人

但見習勤之者八人有之候ニ付八ツ相増申候

一、日野黒絹単羽織

三拾六

御中間

三拾六人

右者毎年六月・十二月定式御細工所より請取候処、来辰年より

六月請取候分共朱書之通相減候様可仕候、十二月請取候分并日

野黒絹単羽織之義者六月・十二月兩度請取候積御座候

(朱書)

「右減之分

茶縮緬拾羽織

五

代金八両貳朱ト銀貳拾四匁貳分

黒加賀絹拾羽織

九拾七

代銀三貫三百六拾三匁九分六厘

日野黒絹単羽織 式拾

代銀三百六拾七匁

三口ノ金八両貳朱ト

銀三貫七百五拾五匁壹分六厘

金ニして五拾七両貳分貳朱ト

銀貳匁六分六厘 但六拾五匁目替

此金六拾五両三分ト

銀貳匁六分六厘

壹ケ年

全減

右者御細工所請取高之内ニ御座候

例年十二月請取候

一、熨斗目小袖 七ツ

但綿代金壹両貳朱宛

(朱書)

一、熨斗目 壹反

代銀八拾三匁七分八厘五毛

同裏絹 壹反

代銀貳拾匁壹分五厘六毛

壹ツニ付綿代共

金壹両貳朱ト銀百三匁九分四厘壹毛

右
熨斗目小袖

綿代金七両三分貳朱

銀七百廿七匁五分八厘七毛

減之分

一、綾縞小袖 壹

但綿代金壹両貳朱

(朱書)

一、綾縞 壹反

代銀百拾四匁四分五厘貳毛

同裏絹 壹反

代銀貳拾匁壹分五厘六毛

壹ツニ付綿代共

金壹両貳朱ト銀百三拾四匁六分八毛

式口ノ金九兩ト

銀八百六拾貳匁壹分九厘六毛

金ニして拾四両壹分ト銀七匁壹分九厘六毛 但六拾目替

此金貳拾三両壹分ト

銀七匁壹分九厘六毛

隔年ニ
壹ケ年

全減

右者御納戸より請取候分隔年相減候分ニ御座候

例年十二月請取候

西丸御用

一、熨斗目小袖 七ツ

但綿代金壹両貳朱宛

(朱書)

一、右

熨斗目小袖綿代金共前同断ニ付

七ツ分

代金七両三分貳朱ト銀七百貳拾七匁五分八厘七毛

一、綾縞小袖 壹ツ

但綿代金壹両貳朱

(朱書)

綾縞小袖綿代共前同断

代金壹両貳朱ト銀百三拾四匁六分八毛

式口ノ金九兩ト

銀八百六拾貳匁壹分九厘六毛

御先練御中間
七人

御先練御中間
七人

御中間御供組頭
壹人

金ニして拾四兩壹分ト銀七匁分九厘六毛 但六拾目替

此金貳拾三兩壹分ト
銀七匁分九厘六毛
来辰年より
来ル午年迄
全減

右者西丸御納戸より請取候分五ヶ年目御断差出候積御座候、当時者
紅葉山 御宮江被遊 御参詣候節着用仕候ニ付、書面之通相減申
上候得共追而両山 御靈屋江 御参詣も被 仰出候節ハ御本丸
之通隔年ニ請取候様仕度奉存候、此段兼而申上置候儀ニ御座候

両丸御納戸より
一、染帷子 壹ツ宛
御中間御供組頭 貳人

右者五ヶ年目壹度請取申候

例年六月御細工所より
一、日野黒絹単羽織 七ツ
在方人留出役
御中間
御小人 拾五人

同断十二月御細工所より
一、同断 八ツ

右者遠 御成之節在方人留罷出候御中間・御小人江打込請取申候

例年十二月請取候
一、手桶 切蓋共 拾貳

(朱書)
「代銀貳匁壹分四厘宛」

一、搔器 拾貳本

(朱書)
「代銀三分六厘宛」

貳口ノ銀貳匁五分

右

手桶 拾貳

搔器 拾貳本

貳口ノ此銀三拾匁

減之分

右者 御本丸向御中間方御番所々々ニ而每暮御賄方より損引替
請取候処、来辰年請取不申隔年御断差出新規請取候積御座候

一、青縁取 四枚引替

一、筵 六枚引替

右ハ御長屋御門御番所江每暮之通御賄方より請取候様仕度候

例年十二月請取候
一、手桶 切蓋共 七ツ

(朱書)
「代銀貳匁壹分四厘宛」

一、搔器 七本

(朱書)
「代銀三分六厘ツ、」

貳口ノ代銀貳匁五分

右

手桶 七ツ

搔器 七本

貳口ノ此代銀拾七匁五分

減之分

右者 西丸向御中間方御番所々々ニ而每暮損引替御断差出西丸御
賄方より請取候処、已来隔年御断差出新規請取之積御座候

例年十二月請取候
一、次棕欄箒 拾貳本

(朱書)
「代銀八分貳厘宛」

右者 御本丸向御中間方御番所々々ニ而損引替御断差出御細工所

より請取候処、已来者隔年御断差出新規請取候積御坐候

一、次棕欄箒 七本

(朱書)

「代銀八分式厘宛

式口へ次棕欄箒 拾九本

此代銀拾五匁五分八厘 減之分」

右者 西丸向御中間方御番所々々江每暮損引替御断差出御細工
所より請取候処、已来ハ隔年御断差出新規請取候積御座候

(朱書)

「右両丸御番所々々江御賄方・御細工所より請取候手桶・搔器・次棕
欄箒之分

隔年ニ

老ケ年

代銀六拾三匁

全減」

例年十二月請取候
御長屋御門御番所

一、御紋附丸御挑灯^(挑力)

但鉄釣割底引綱共

四張

新土戸御番所

一、同断

右同断

五張

奥表仕切土戸御番所

一、同断

右同断

式張

二丸御長屋御門御番所

一、同断

右同断

式張

同御台所脇御長屋御門御番所
一、同断

式張

右同断

同新御長屋御門御番所
一、同断

式張

右同断

右ハ 御本丸向御中間方御番所々々江御挑灯奉行より每暮損引替
請取候分

同断十二月請取候

西丸御長屋御門御番所

一、御紋附丸御挑灯

但鉄釣割底引綱共

式張

同御納戸口前御門御番所

一、同断

右同断

式張

同御台所前御門御番所
一、同断

四張

右同断

同裏表仕切土戸御門御番所
一、同断

式張

右同断

右ハ 西丸向御中間方御番所々々ニ而每暮御挑灯奉行より損引替
請取候分

一、遠 御成之節在方人留出役之者弓張御挑灯拾五張、御挑灯奉行

より每暮損引替請取申候

一、野方御使之者

御成之節夜ニ入候砌者弓張御挑灯・御蠟燭之儀も御挑灯奉行より
請取申候

右御番所々々并在方人留出役之者共老ケ年老度宛損引替請取候儀
ニ付、是迄之通每暮請取候積御座候

但御蠟燭之義ハ都而御小人方ニ而申上候間別段不申上候

同断六月請取候
西丸御用

一、黒加賀絹拾羽織 式拾六

(朱書)

「・代銀五百壹匁六分八厘」

老ツニ付
銀三拾四匁六分八厘

西丸
御中間目付
・式拾六人

一、日野黒絹単羽織 式拾式

老ツニ付
銀拾八匁三分五厘

御中間
・式拾式人

代銀四百三匁七分

例年十二月請取候

一、茶縮緬拾羽織 五ツ

但紐共

老ツニ付
金老兩式分式朱ト
銀四匁八分四厘

御中間御供組頭
五人

代金八兩式朱ト銀式拾四匁式分

一、黒加賀絹拾羽織 五拾八

但過人・見習共

老ツニ付
銀三拾四匁六分八厘

御中間目付
五拾八人

代銀貳貫拾壹匁四分四厘

一、黒加賀絹拾羽織 拾三

老ツニ付
銀三拾四匁六分八厘

御中間押
拾三人

代銀四百五拾匁八分四厘

一、日野黒絹単羽織 百八

老ツニ付
銀拾八匁三分五厘

御中間
御供方

内拾ヲ相減已来九拾八宛請取候ニ付右減候拾之分

(朱書)

「代銀百八拾三匁五分」

残り九拾八之分

代銀壹貫七百九拾八匁三分

同断十二月請取候
西丸御用

一、茶縮緬拾羽織 壹

但紐共

老ツニ付
金老兩式分式朱ト
銀四匁八分四厘

御中間御供組頭
壹人

代金老兩式分式朱ト銀四匁八分四厘

一、黒加賀絹拾羽織 式拾六

但見習共

老ツニ付
銀三拾四匁六分八厘

御中間目付
式拾六人

代銀九百壹匁六分八厘

一、日野黒絹単羽織 三拾六

老ツニ付
銀拾八匁三分五厘

御中間
三拾六人

代銀六百六拾匁六分

例年六月・十二月請取候
在方人留出役

一、日野黒絹単羽織 拾五

老ツニ付
銀拾八匁三分五厘

御中間
御小人
拾五人

代銀貳百七拾五匁式分五厘

(朱書)

「右朱書減之分

六口、金八兩式朱ト

銀三貫七百五拾五匁壹分六厘

金ニして五拾七兩式分式朱ト銀式匁六分六厘

此金六拾五兩三分ト

銀式匁六分六厘

老ケ年

全減

右墨書減無之分

拾口、金九兩三分ト銀七貫八百七拾匁四分

金ニして百式拾匁兩ト銀五匁四分

但六拾目替

此金百三拾兩三分ト銀五匁四分

例年十二月請取候

一、熨斗目小袖 七ツ

七ツニ付
金壹兩貳朱ト

御先練御中間
七人

但綿代金壹兩貳朱宛

銀百三拾匁九分四厘壹毛

〔朱書〕
「右熨斗目小袖綿代共

、金七兩三分貳朱ト銀七百貳拾七匁五分八厘七毛」

一、綾島小袖 壹

御中間御供組頭
壹人

但綿代金壹兩貳朱

〔朱書〕
「右綾島小袖綿代共

、金壹兩貳朱ト銀百三拾四匁六分八厘

貳口、金九兩ト

銀八百六拾貳匁分九厘五毛

金ニして拾四兩壹分ト銀七匁分九厘六毛

但六拾目替

此金廿三兩壹分ト

銀七匁分九厘五毛

隔年ニ
壹ケ年
全減」

同断十二月請取候
西丸御用

一、熨斗目小袖 七ツ

但綿代金壹兩貳朱ツ、

御先練御中間
七人

一、綾島小袖 壹ツ

但綿代金壹兩貳朱宛

御中間御供組頭
壹人

〔朱書〕
「貳口、御本九分前同様ニ付

五ケ年目請取候ニ付
当辰年より

此金貳拾三兩壹分ト

銀七匁分九厘五毛

来ル午年迄
全減」

兩丸御納戸より

一、染帷子 貳ツ

七ツニ付
銀廿六匁七分四厘

御中間御供組頭
貳人

代銀五拾貳匁分四厘八毛

兩丸御中間方御番所々々江
例年十二月請取候

七ツニ付

一、手桶 銀貳匁分四厘

拾九

〔朱書〕
「代銀四拾匁六分六厘」

壹本ニ付

一、搔器 銀三分六厘

拾九本

〔朱書〕
「代銀六匁八分四厘」

壹本ニ付

一、次棕櫚簪 銀八分貳厘

拾九本

〔朱書〕

「代銀拾五匁五分八厘

三口、此代銀六拾三匁

此金壹兩ト銀三匁

右朱書墨書壹ケ年請取高

、金貳百四拾五兩壹分ト銀貳匁五分

内

〔朱書〕

「朱書減之分

金百拾三兩貳分ト銀五匁」

墨書減無之分

金百三拾壹兩貳分貳朱卜銀五匁

御長屋御門御番所

壹枚ニ付

一、青縁取

銀壹匁三分

代銀七匁八分

同

一、莛

銀六分八厘

代銀五匁四分四厘

右每暮御賄方より請取候分

壹張ニ付

一、御紋附丸御挑灯

但鉄釣割底引綱

代銀七匁三分貳厘

代銀貳拾九匁二分八厘

右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分

壹本ニ付

一、請筒御挑灯建

銀三匁九分八厘三毛
米三升壹勺五才

代銀拾五匁九分三厘貳毛

木代相除

一、鉄行灯

但網懸戸附小道具共

代銀貳拾七匁三分八厘

一、大御門海老錠

代銀三匁九分

一、潜り同断

代銀壹匁壹分

一、御門潜引綱

代銀拾貳匁七分五厘

壹筋ニ付

一、御挑灯引綱

代銀拾六匁九分五毛

代銀五拾匁七分壹厘五毛

壹本ニ付

一、六尺棒

代銀壹匁四分四厘

代銀拾壹匁五分貳厘

一、毛ちり

代銀六匁三分五厘

壹筋ニ付

一、鍵縄

代銀拾匁六分

代銀五匁三分

銀百八拾貳匁七分六厘七毛

米壹斗貳升六勺

新土戸御番所

壹張ニ付

一、御紋附丸御挑灯

代銀七匁三分貳厘

但鉄釣割底引縄共

代銀三拾六匁六分

右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分

一、鉄行灯

但網懸戸附小道具共

代銀貳拾七匁三分八厘

壹本ニ付

一、台附御挑灯台

銀六匁五分九厘三毛
米五升貳勺五才

代銀貳拾六匁三分七厘貳毛

木代相除

米貳斗壹合

一、六尺棒

代銀貳匁八分八厘

一、毛ちり

三筋

八本

壹本

貳筋

五張

壹ツ

四本

貳本

壹本

代銀六匁三分五厘	式筋 ^二 付	一、捕縄	代銀八匁六分	式筋
	代銀四匁三分			
一、御門錠鍵	式口 ^二 付	一、御門錠鍵	代銀四匁六分	式口
	大戸之方式匁四分 潜り之方式匁二分			
一、並錠	式口	一、並錠	代銀壹匁九分式厘	式口
			百拾四匁七分式毛	
			米式斗壹合	
奥表仕切土戸御番所		一、御紋附丸御挑灯	但鉄釣割底引縄共	式張
			代銀拾四匁六分四厘	
右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分		一、台附御挑灯建	壹本 ^二 付	式本
			銀七匁	
			米五升	
		代銀拾四匁	米壹斗	式本
			木代相除	
一、鉄行灯	式ツ	一、鉄行灯	但網懸戸附小道具共	式ツ
			代銀貳拾七匁三分八厘	
一、水鉄炮	式本	一、水鉄炮	但去ル酉年御買上直段 ^二 而時々吟味、 直段之品 ^二 付壹本代金 貳分式朱卜銀三匁八分七厘	式本
			代金壹両壹分卜銀七匁七分四厘	

一、六尺棒	式本	一、六尺棒	代銀貳匁八分八厘	
			金壹両壹分卜銀六拾六匁六分四厘	
			米壹斗	
大奥御台所前御門御番所		一、鉄行灯	但網懸戸附小道具共	式ツ
			代銀貳拾七匁三分八厘	
一、御門えび錠	大小 式口	一、御門えび錠	大之方壹匁 小之方銀六分	式口
			代銀壹匁六分	
一、六尺棒	五本	一、六尺棒	壹本 ^二 付 代銀壹匁四分四厘	五本
			代銀七匁貳分	
一、御門潜引綱	式筋	一、御門潜引綱	代銀八匁五分五厘	式筋
			銀四拾四匁七分三厘	
大奥裏締戸御番所		一、鉄行灯	但網懸戸附小道具共	式ツ
			代銀貳拾七匁三分八厘	
二丸大奥裏締戸御番所		一、鉄行灯	但同断	式ツ
			代銀貳拾七匁三分八厘	
			銀五拾四匁七分六厘	
御太鞍櫓下仕切土戸御番所				

一、鉄行灯 但同断	代銀貳拾七匁三分八厘	壹	一、三ツ道具 代銀拾八匁九分七厘	貳本
一、六尺棒	代銀貳匁八分八厘	貳本	一、六尺棒 代銀貳匁八分八厘	貳本
一、錠錠	大之方貳匁貳分 小之方壹匁八分	大小 貳口	一、御門潜引綱 代銀八匁五分五厘	壹筋
代銀四匁	代銀三十四匁貳分六厘		一、御門海老錠 代銀壹匁六分	貳口
二丸御広敷御門			一、鉄行灯 但網懸戸附小道具共 代銀貳拾七匁三分八厘	壹
一、鉄行灯	但網懸戸附小道具共 代銀貳拾七匁三分八厘	壹	一、請筒御挑灯台 代銀拾匁 米六升貳合 木代相除	貳本
一、六尺棒	代銀四匁三分貳厘	三本	代銀拾匁 米六升貳合	
一、御門潜引綱	代銀八匁五分五厘	壹筋	代銀八拾四匁貳厘 米六升貳合	
一、御門海老錠	代銀壹匁六分	大小 貳ツ	二丸御台所脇御長屋御門御番所 一、御紋附丸御挑灯 但鉄釣割底引綱共 代銀拾四匁六分四厘	貳張
二丸新御長屋御門御番所 一、御紋附丸御挑灯 但鉄釣割底引綱共 代銀拾四匁六分四厘	代銀四拾壹匁八分五厘	貳張	一、鉄行灯 但網懸戸附小道具共 代銀貳拾七匁三分八厘	壹ツ
右者每暮御挑灯奉行より損引替請取候分			一、請筒御挑灯台 代銀拾匁	貳本

一、六尺棒	米六升貳合				
	貳本				
一、御門潜引綱	代銀貳匁八分八厘				
	壹筋				
一、御門海老錠	代銀八匁五分五厘	大小			
	貳口				
二丸御長屋御門御番所	一、御紋附丸御挑灯				
	但鉄釣割底引綱共				
一、御紋附丸御挑灯	代銀拾四匁六分四厘				
	貳張				
右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分	一、鉄行灯				
	但網懸戸附小道具共				
一、鉄行灯	代銀貳拾七匁三分八厘	壹ツ			
	貳本				
一、請筒御挑灯台	代銀拾匁				
	米六升貳合				
一、六尺棒	代銀貳匁八分八厘	貳本			
	壹筋				
一、御門潜引綱	代銀八匁五分五厘	大小			
	貳口				
一、御門海老錠	代銀壹匁六分				
	銀六拾五匁五厘				
米六升貳合	一、鉄行灯				
	但網懸戸附小道具共				
一、六尺棒	代銀貳匁八分八厘	壹本			
	貳張				
一、御門潜引綱	代銀拾貳匁七分五厘	壹筋			
	御門之方三匁九分				
一、御門海老錠	代銀五匁	大小			
	潜り之方壹匁五分	壹口			
一、水鉄炮	代金貳分貳朱ト三匁八分七厘	壹本			
	壹ツニ付				
一、水手籠	代銀三匁三厘	三ツ			
	代銀壹匁壹厘				
一、請筒御挑灯建	但壹本代	貳本			
	銀三匁九分八厘三毛				
一、御門潜引綱	代銀七匁九分六厘六毛				
	米六升三勺				
一、金貳分貳朱ト	銀七拾七匁五分壹厘六毛				
	米六升三勺				
西丸御納戸口前御門御番所	一、御紋附丸御挑灯	貳張			
	一、御紋附丸御挑灯				

但鉄釣割底引綱共			
代銀拾四匁六分四厘			
右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分			
一、鉄行灯	壹		
但網懸戸附小道具共			
代銀貳拾七匁三分八厘			
一、請筒御挑灯建	貳本		
代銀七匁九分六厘六毛			
米六升三勺		木代相除	
一、六尺棒	貳本		
代銀貳匁八分八厘			
一、水鉄炮	壹本		
代金貳分貳朱ト三匁八分七厘			
一、水籠	三ツ		
代銀三匁三厘			
一、御納戸口引戸錠鍵	壹口		
代銀貳匁貳分			
一、御番所裏口引戸錠鍵	壹口		
代銀貳匁貳分			
西丸御台所前御門御番所			
一、御紋附丸御挑灯	四張		
但鉄釣割底引綱共			
代銀廿九匁貳分八厘			
右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分			
一、鉄行灯	壹		
但網懸戸附小道具共			
代銀貳拾七匁三分八厘			
一、台附御挑灯建			
代銀拾三匁壹分八厘六毛			
米壹斗五勺		木代相除	
一、請筒御挑灯建	貳本		
代銀七匁九分六厘六毛		木代相除	
米六升三勺			
一、六尺棒	貳本		
代銀貳匁八分八厘			
一、水鉄炮	壹本		
代金貳分貳朱ト三匁八分七厘			
一、水籠	三ツ		
代銀三匁三厘			
一、突錠鍵	大小 五口		
代銀拾壹匁八分			
一、並錠鍵	六ツ		
代銀拾壹匁貳分			
西丸裏表仕切土戸御番所			
一、御紋附丸御挑灯	貳張		
但鉄釣割底綱共			
代銀拾四匁六分四厘			
右每暮御挑灯奉行より損引替請取候分			
一、鉄行灯	壹		
但網懸戸附小道具共			
代銀貳拾七匁三分八厘			
一、台附御挑灯建	貳本		

一、六尺棒 代銀貳匁八分八厘 一、水鉄炮 代金貳分貳朱ト三匁八分七厘 一、水籠 代銀三匁三厘 一、並錠鍵 代銀三匁九分 一、御門潜引綱 代銀八匁五分五厘 一、六尺棒 代銀四匁三分貳厘 一、御番所入口錠鍵 代銀貳匁貳 一、御門海老錠鍵 代銀三匁壹分 一、水籠 代銀貳匁貳厘 一、銀四拾七匁五分七厘	代銀拾三匁壹分八厘六毛 米壹斗五勺 米代相除 貳本 壹本 三ツ 貳ツ 壹 壹筋 三本 壹口 大小 貳口 貳ツ	一、御紋附弓張御挑灯 代銀九拾七匁五分 右ハ遠 御成之節、在方出役御中間・御小人拾五人相用候ニ付、每暮御挑灯奉行より損引替請取候分 一、右御番所々々其外請取候蠟燭之義ハ、壹ヶ年増減有之候儀ニ付 代銀積り不申上候 一、御中間方御番所々々江請取候油之義、壹ヶ年長夜・短夜之分 合三石四斗七升八合五勺 此代銀壹貫百拾三匁壹分貳厘 但壹升ニ付 凡代銀三匁貳分 金ニして拾八匁貳分ト銀三匁壹分貳厘 右御番所々々損次第引替請取候品其外共 一、金貳拾貳匁壹分ト 銀壹貫百八拾八匁八分貳厘 金ニして拾九匁貳分ト銀八匁八分貳厘 米九斗八升九合五勺 但百俵ニ付金三十五兩 代銀五拾九匁三分七厘 此金四拾貳匁三分貳朱ト銀六匁九厘 前書壹ヶ年請取高共 貳口一、金貳百八拾八匁貳朱ト銀三匁壹分九厘 内 (朱書) 一、金百拾三匁貳分銀五匁 金百七拾四匁貳分銀五匁六分九厘 減無之分 右之通御座候、以上 辰二月 御中間頭
例年十二月請取候		

西丸勤御中間方役々并御番所向年々定式請取物減之分并
損次第引替候品々共、惣牀代銀取調候書付

西丸勤御中間方役々并御番所向年々定式請取物之儀、減方朱書
ニ相認左ニ申上候

例年六月請取候

西丸御用

一、黒加賀絹拾羽織 弍拾六

但見習共

〔代銀九百壹匁六分八厘〕

西丸
御中間目付
弍拾六人

一、日野黒絹単羽織 弍拾弍

代銀四百三匁七分

御中間
弍拾弍人

同断十二月請取候

西丸御用

一、茶縮緬拾羽織 壹

但紐共

代金壹兩貳分弍朱ト銀四匁八分四厘

御中間御供組
壹人

一、黒加賀絹拾羽織 弍拾六

但見習共

代銀九百壹匁六分八厘

西丸
御中間目付
弍拾六人

一、日野黒絹単羽織 三拾六

代銀六百六拾匁六分

御中間
三拾六人

〔朱書〕

〔朱書減之分〕

銀九百壹匁六分八厘

金ニして拾三兩三分ト銀七匁三分弍厘

老ケ年
全減

墨書減無之分

四口、金壹兩貳分弍朱ト

銀壹貫九百七拾匁八分弍厘

金ニして三拾兩壹分ト

銀四匁弍分弍厘

但六拾目替

此金三拾壹兩三分弍朱ト銀四匁弍分弍厘

例年十二月請取候

西丸御用

一、熨斗目小袖 七

但綿代金壹兩貳朱ツ、

〔朱書〕

〔右熨斗目小袖綿代共〕

、金七兩三分弍朱・銀七百廿七匁五分八厘七毛

御先練御中間
七人

一、綾縞小袖 壹

但綿代金壹兩弍朱

御中間御供組頭
壹人

〔朱書〕

〔右綾縞小袖綿代共〕

、金壹兩貳朱ト銀百三拾四匁六分八毛

弍口、金九兩ト銀八百六拾弍匁九厘六毛

金ニして拾四兩壹分ト

銀七匁九厘六毛 五ヶ年目請取候ニ付
当辰年より
来ル午年迄

此金弍拾三兩壹分ト銀七匁壹分九厘六毛

全減

西丸御納戸より

一、染帷子 壹

御中間御供組頭
壹人

代銀廿六匁七厘四毛

右ハ西丸御納戸より請取候分

西丸御中間方御番所々々江

例年十二月請取候

一、手桶 切蓋共

(朱書)

「代銀拾四匁九分八厘」

一、搔器

(朱書)

「代銀貳匁五分八厘」

一、次棕欄箒

(朱書)

「代銀五匁七分四厘」

隔年

壹ヶ年

全減

三口ノ銀貳拾三匁三分

右者西丸御賄方并御細工所より請取候分

右朱書・墨書請取高

ノ金七拾兩ト銀六分壹厘

内

(朱書)

「朱書之分

金三拾七兩貳分貳朱ト銀三分壹厘六毛」

墨書減無之分

金三拾貳兩壹分貳朱ト銀貳分九厘四毛

西丸御長屋御門御番所

一、御紋附丸御挑灯

但鉄釣割底引綱共

代銀拾四匁六分四厘

右ハ每暮御挑灯奉行より損引替請取候分

一、鉄行灯

但綱懸戸附小道具共

代銀廿七匁三分八厘

一、六尺棒

代銀貳匁八分八厘

一、御門潜引綱

代銀拾貳匁七分五厘

一、御門ゑび錠

代銀五匁

一、水鉄砲

代金貳分貳朱ト銀三匁八分七厘

一、水手籠

代銀三匁三厘

一、請筒御挑灯建

代銀七匁九分六厘六毛 木代相除

米六升三勺

ノ金貳分貳朱ト銀七拾七匁五分壹厘六毛 米六升三勺

西丸御納戸口前御門御番所

一、御紋附丸御挑灯

但鉄釣割底引綱共

代銀拾四匁六分四厘

右者每暮御挑灯奉行より損引替請取候分

一、鉄行灯

但綱懸戸附小道具共

代銀廿七匁三分八厘

一、請筒御挑灯建

代銀七匁九分六厘六毛 木代相除

米六升三勺

一、六尺棒

貳本

壹筋

貳口

大小

壹本

三ツ

貳本

貳張

壹

貳本

貳本

代銀式匁八分八厘	
一、水鉄炮	壺本
代金式分式朱卜銀三匁八分七厘	
一、水籠	三ッ
代銀三匁三厘	
一、御納戸口引戸錠鍵	壺口
代銀式匁式分	
ノ金式分式朱卜銀六拾四匁壹分六厘六毛 米六升三勺	
西丸御台所前御門御番所	
一、御紋附丸御挑灯	四張
但鉄釣割底引綱共	
代銀式拾九匁式分八厘	
右每暮御挑灯奉行より損引替受取候分	
一、鉄行灯	壺
但網懸戸附小道具共	
代銀式拾七匁三分八厘	
一、台附御挑灯建	式本
代銀拾三匁壹分八厘六毛 木代相除 米壹斗五勺	
一、請筒御挑灯建	式本
代銀七匁九分六厘六毛 木代相除 米六升三勺	
一、六尺棒	式本
代銀式匁八分八厘	
一、水鉄炮	壺本
代金式分式朱卜銀三匁八分七厘	

一、水籠	三
代銀三匁三厘	
一、突錠鍵	大小共 五口
代銀拾壺匁八分	
一、並錠鍵	六ッ
代銀拾壺匁式分	
ノ金式分式朱卜銀百拾匁五分九厘式毛 米壺斗六升八勺	
西丸奥表仕切土戸御番所	
一、御紋附丸御挑灯	式張
但鉄釣割底引綱共	
代銀拾四匁六分四厘	
右者每暮御挑灯奉行より損引替請取候分	
一、鉄行灯	壺
但網懸戸附小道具共	
代銀式拾七匁三分八厘	
一、台附御挑灯建	式本
代銀拾三匁壹分八厘六毛 木代相除 米壺斗五勺	
一、六尺棒	式本
代銀式匁八分八厘	
一、水鉄炮	壺本
代金式分式朱卜銀三匁八分七厘	
一、水籠	三ッ
代銀三匁三厘	
一、並錠鍵	式ッ
代銀三匁九分	

金式分式朱卜銀六拾八匁八分八厘六毛 米壹斗五勺

西丸御広敷御長屋御門御番所

一、鉄行灯

但網懸戸附小道具共

代銀廿七匁三分八厘

壹

一、御門潜引綱

代銀八匁五分五厘

壹筋

一、六尺棒

代銀四匁三分式厘

三本

一、御番所入口錠鍵

代銀貳匁貳分

壹口

大小

一、御門海老錠鍵

代銀三匁壹分

貳口

一、水籠

代銀貳匁貳厘

貳ツ

銀四拾七匁五分七厘

右西丸向五ヶ所御中間方御番所々々損引替請取候分

金貳兩貳分ト銀三百六拾八匁七分三厘

為金六兩貳朱ト銀壹匁貳分三厘

米三斗八升壹合九勺代

百俵ニ付三拾五兩替

金壹分式朱ト銀四分壹厘四毛

此合金九兩ト銀壹匁六分四厘四毛

一、同断五ヶ所御番所々々江請取候油之儀壹ヶ年長夜短夜之分

油合壹石貳斗四升五合

但壹升ニ付代銀

此代金七兩壹分ト銀七分五厘

三匁貳分

一、右御門所々御挑灯江相用候御蠟燭之義 其時々受取調不仕候事

右前書壹ヶ年請取高其外共

三口金八拾六兩壹分ト銀三匁四毛

内

(朱書)

「金三拾七兩貳分式朱ト銀三分壹厘六毛

減之分」

金四拾八兩貳分式朱ト銀貳匁六分八厘八毛

減無之分

右之通御座候、以上

辰三月

御中間頭

二月廿四日五役相揃御用所行方源兵衛達ス

御中間方定式之廉々是迄臨時与御断

差出候分取調候書付

御中間頭

右被 仰付候節茶縮緬袷羽織請取申候

御中間御組組頭

御本丸
西丸

右被 仰付候節黒加賀絹袷羽織請取申候

御簾指之者

御本丸
西丸

御持鑓之者
野方御使之者

右被 仰付候節黒絹単羽織請取申候

御中間家督被下置
御奉公出仕候者
御中間

跡御抱入之者
御中間
新規御抱入之者
御目付支配無役より
御中間江
御入人之者
右被 仰付候節黒絹單羽織請取申候

御中間御供組頭
御中間目付
御中間押
御中間

右
両丸様御規式并 御城内外遠 御成之節々雨天ニ候得ハ濡御手
当金相願請取申候

御中間目付

右御住居近辺其外出火之節御出馬御附添等いたし御羽織切損候
節請取申候

右之通定式之廉ニ而臨時与相認御断差出請取来り申候、以上

辰二月 御中間頭

當時御中間方人数
取調帳 御中間頭

寛政度御定
御中間定人数

五百五拾五人

當時五百五十六人寛政度ニ

見合候得ハ忝人過人

内

御中間組頭

明キ忝人 拾人

御中間御供組頭

五人

御扶持賄役助共

拾忝人

御中間目付

五拾人

同見習

六人

野方御使之者

拾九人

御長屋御門番助共

式拾式人

大奥塀仕切土戸番

六人

大奥裏締戸番

拾式人

二丸御長屋御門番

六人〇

昼番之者

拾忝人

御旗指之者

五拾五人

御中間目付過人

忝人

御中間押

拾三人

御持鍵之者

拾八人

新土戸番

八人

大奥御台所前御門番

九人

御太鞆櫓下土戸番

六人

二丸御台所脇御長屋御門番

拾人△

御馬髮卷役

四人

四ヶ所

六拾八人

諏訪部鎌五郎所定番之者
村松万蔵所定番之者
曲木又六郎所定番之者
竊見七左衛門所定番之者

触番書役之者助共

拾人

忝人隱居家督願書
進達いたし置候

七拾五人

昼番御用除之者

三拾九人

西丸御中間目付見習

八人

同野方御使之者

九人

同御台所前御門番

六人

同大奥御長屋御門番

触番之者

西丸御中間目付

拾八人

同御持鍵之者

拾三人

同御納戸口前御門番

六人

同奥表塀仕切土戸番

六人

同裏締戸番

他場所出役之者
六人
三人

右之通御座候、以上
御中間頭
辰八月

○
浅井七三郎組
御中間
二丸塀重御門番過人
古沢一平
右御門番之義是迄御中間方ニ而者相勤不申候処、天保十四卯年五月廿七日右一平初而過人被 仰付候

△
天保四巳年二月廿三日二丸江新規御門出来ニ付番人申渡候様被 仰渡、尤御台所脇御長屋御門打込勤之積、此度新規四人増人被 仰付式ヶ所御門昼夜式人勤番日々四人江、一日七合五勺ツゝ御手当扶持被 下候旨被仰渡候ニ付、四人増人申渡御門番拾人ニ成ル

右八月九日御用所一太郎江遣ス

西御丸
御城内外
御成御供
人数書

御城内両山遠 御成御供人数書

一、西丸
二丸・三丸
吹上 御成之節

御持鍵役
六人
〔朱書〕
野方御使
五人
〔朱書〕
〔忝人減〕

都合拾七人
〔朱書〕
〔九人〕
〔内式人減〕

一、吹上御庭江被為 成夫より二丸・三ノ丸江桔橋内通御道之節
御持鍵役
六人
〔朱書〕
〔忝人減〕
吹上御供

上梅林御門
内より御供
六人
〔朱書〕
〔忝人減〕

野方御使
五人

都合拾七人
〔朱書〕
〔拾五人〕
〔内式人減〕

右者御替御道具請取御供二建ニ相成申候人数

一、紅葉山 御参詣之節

御中間押

六人

(朱書)

「忝人減」

但

御宮計 御参詣之節ハ忝人相減申候

御成之節々御小人押同様減方仕人数之義ハ同様罷出候間別段認加ヘ不申、尤都而譬ハ御中間押五人罷出候得ハ矢張御小人押五人罷出候

御持鑓役

六人

野方御使

五人

定式御供御馬牽人

九人

御馬髮卷役

一人

御供組頭

一人

(朱書)

都合廿八人

「式拾七人」

組頭

一人

内押

六人

御中間

廿一人

(朱書)

「内押忝人減」

一、紅葉山

御装束ニ而

御参詣之節

御中間押

六人

(朱書)

「忝人減」

但

御宮計 御参詣之節ハ忝人相減申候

一、上野 御成之節

御持鑓役

六人

御先練

七人

御供組頭

一人

(朱書)

都合廿六人

「式拾五人」

(朱書)

「内押忝人減」

但御先練之儀ハ両山共人数同断

御中間押

拾三人

(朱書)

「式人減」

野方御使

八人

但増上寺

御成之節ハ忝人相減申候

安国殿江

御参詣之節ハ外忝人都合九人

両山共御装束之節ハ外忝人御轅御注進都合拾人

定式御供御馬牽人

拾式人

御供組頭

一人

(朱書)

都合四拾六人

「四拾四人」

組頭

一人

内押

拾三人

御中間

三拾式人

(朱書)

「内押式人減」

一、田安
清水

御屋形江
御立寄之節ハ

御中間押

拾三人
(朱書)

御持鍵役

拾老人
(朱書)

「老人減」

野方御使

九人

髮卷役

老人
(朱書)

定式御供御馬牽人

六人

御供組頭

老人

内御供

御持鍵役

六人

野方御使

五人

「老人減」

(朱書)

「老人減」

都合五拾式人

「四拾八人」

内組頭

老人

御中間

三拾八人

(朱書)

「内押老人減、御中間三人減」

一、一橋外明地江

御成之節

御中間押

拾三人

(朱書)

御持鍵役

拾老人

「式人減」

野方御使

八人

定式御供御馬牽人

拾式人

髮卷役

老人

御供組頭

老人

都合四拾六人

内組頭

「四拾三人」

老人

拾三人

一、一橋外明地より番町御薬園江
御中間 三拾式人
(朱書)
「内押式人減、御中間老人減」

御成之節

御中間押

拾三人

(朱書)

野方御使

拾人

御持鍵役

拾老人

(朱書)

定式御供御馬牽人

拾式人

髮卷役

老人

御供組頭

老人

都合四拾八人

「四拾五人」

内組頭

老人

御中間

三拾四人

(朱書)

「内押式人減、御中間老人減」

一、一橋外より

御乗船三而品川筋 御成之節

野方御使

三拾老人

但平川口御門之節ハ外老人、都合三拾式人

御持鍵役

式拾式人

但御供三建ニ相成候節人数

御中間押

拾三人

御供組頭

三人

但前同断

定式御供御馬牽人

髮卷役

両国 御乗船二而
一、浜御庭江 御成之節

野方御使	拾貳人	在方出役中小申合	貳人
御鷹御用	壹人	定式御供御馬牽人	拾貳人
髪卷役	壹人	御供組頭	壹人
表役所出役	貳人		
(朱書)			
都合五拾六人	「五拾五人」		
組頭	壹人		
内押	拾三人		
御中間	四拾貳人		
(朱書)			
「内御中間壹人減」			
御中間押	拾三人	御持鑓役	八人
		(朱書)	
		「壹人減」	
野方御使	拾貳人	定式御供御馬牽人	拾貳人
髪卷役	壹人	御鷹御用	壹人
在方出役	九人	御供組頭	壹人
靈岸島	御上り場御用意		
御持鑓役	七人	野方御使	四人
御供組頭	壹人		
御先揃			
御持鑓役	七人	野方御使	四人
御供組頭	壹人		
御供組頭	七人	表役所出役	四人

辰ノ口 御乗船二而
一、石橋 御成之節
一、同断之節

都合八拾三人	(朱書)	壹人	貳人
「八拾貳人」			
組頭	三人		
内押	拾三人		
御中間	六拾六人		
(朱書)			
「内御中間壹人減」			
御中間押	拾三人	定式御供御馬牽人	拾貳人
髪卷役	壹人	御鷹御用	壹人
在方出役	九人	御持鑓役	八人
		(朱書)	
		「壹人減」	
野方御使	八人	御組組頭	壹人
靈岸島	御上り場御用意		
前同断			
浜御先揃	前同断		
(朱書)			
都合七拾九人	「七拾八人」		
組頭	三人		
内押	拾三人		
御中間	六拾貳人		
(朱書)			
「内御中間壹人減」			
一、雜司ヶ谷 筋江 御成之節			
穴八幡			

一、駒場野江 御成之節

御中間押 拾三人 御持鑓役 拾一人
〔朱書〕
〔老人減〕
野方御使 拾三人
但池袋村御入込之節ハ外貳人 都合拾五人
定式御供御馬牽人 髮卷役 壹人
御鷹御用 拾貳人 在方出役 七人
御供組頭 壹人
〔朱書〕
都合五十九人 〔五十七人〕
組頭 壹人
内押 拾三人
御中間 四十四人
〔朱書〕
〔内押老人減、御中間老人減〕
野方御使 拾五人 内御供野方御使 五人
〔朱書〕
御持鑓役 拾一人 内御供御持鑓役 六人
〔朱書〕
〔老人減〕
御馬牽人 拾貳人
御鷹御用 壹人
在方出役 拾人 御鷹御用 三人
御供組頭 拾人

一、川筋 御成之節

但追鳥狩之節 壹人
御招待人 五人
〔朱書〕
都合八拾三人 〔八拾老人〕
組頭 壹人 〔朱書〕
内押 拾三人 〔外二〕
御中間 六十八人 御先御供組頭 四人
〔朱書〕
〔内御中間貳人減〕 御馬牽人 三百人程
御中間押 拾三人 御持鑓役 拾五人
〔朱書〕
〔老人減〕

一、玉川筋江 御成之節

御中間押 拾三人 御持鑓役 拾一人
御持鑓役 拾一人
都合六拾七人 〔六拾六人〕
組頭 貳人
内押 拾三人
御中間 五拾一人
〔朱書〕
〔内御中間老人減〕
野方御使 拾六人 御鷹御用 壹人
御馬牽人 拾貳人 髮卷役 壹人
在方出役 七人 御供組頭 貳人
〔朱書〕

但御早召之節ハ外貳人、都合拾三人

野方御使

三拾四人

但行善寺 御膳所之節ハ外八人、都合四拾貳人

御馬牽人

髮卷役

拾貳人

壹人

御鷹御用

在方出役

壹人

七人

御供組頭

壹人

都合八拾人

組頭

壹人

内押

拾三人

御中間
六十五人

一、真間筋江
御成之節

御中間押

拾三人

御持鑓役

八人

(朱書)
「老入減」

野方御使

拾人

御鷹御用

壹人

御馬牽人

拾貳人

髮卷役

壹人

在方出役

七人

御供組頭

壹人

逆井 御上り場揃

御持鑓役

七人

野方御使

四人

御供組頭

壹人

市川揃

御持鑓役

貳人

野方御使

四人

野方御使

御場濟

御供組頭

八人

壹人

都合八拾人

(朱書)
「七拾九人」

組頭

三人

内押

拾三人

御中間

六拾三人

(朱書)

「内御中間老入減」

西丸様

御城内両山遠

御成之節御供人数書

一、御本丸江
御成之節

御持鑓役

六人

野方御使

六人

(朱書)
「老入減」

(朱書)
「貳人減」

都合拾貳人

(朱書)
「九人」

(朱書)

「内三人減」

一、吹上御庭江
御成之節

御持鑓役

六人

野方御使

七人

(朱書)
「老入減」

(朱書)
「貳人減」

都合拾三人

(朱書)
「拾人」

(朱書)

「内三人減」

一、吹上御庭より西桔橋内通り二丸・三ノ丸江
請取御供ニタ手ニ相分候間
御成之節御替御道具

御持鑓役

野方御使

拾式人
(朱書)
「式人減」
七人

都合拾九人
(朱書)
「拾七人」
「内式人減」

御轅二而
一、紅葉山
御参詣之節

御中間押
六人
(朱書)
「忝人減」
但御宮計之節ハ忝人相減申候

御持鑓役
六人
野方御使
六人
(朱書)
「忝人減」

御供組頭
忝人
御先練
七人
御先練扣白張宰領
忝人

都合廿七人
(朱書)
「式拾五人」

組頭
忝人
内押
六人
御中間
拾式人
御先練
七人

(朱書)
「内押忝人減、御中間忝人減」

一、紅葉山
御参詣之節
中間押
六人
(朱書)
「忝人減」

但御宮計
御参詣之節

御持鑓役
六人

野方御使

御供組頭
忝人

六人
(朱書)
「忝人減」

髮卷役
忝人

御馬牽人
九人

都合廿九人
(朱書)
「式拾七人」

組頭
忝人
内押
六人
御中間
廿式人

(朱書)
「内押忝人減、御中間忝人減」

御裝束二而
一、上野江
御参詣之節

御中間押

御持鑓役

拾式人
(朱書)
「忝人減」

拾忝人
(朱書)
「忝人減」

野方御使

御馬牽人

拾忝人
(朱書)
「忝人減」

拾式人

髮卷役
忝人

御供組頭
忝人

御先練
七人

同扣白張才領
忝人

都合五拾六人
(朱書)
「五拾三人」

組頭
忝人
内押
拾式人
御中間
三拾六人
御先練
七人

(朱書)
「内押𡵿人減、御中間𡵿人減」
但増上寺 御参詣之節ハ野方御使𡵿人相減申候
安国殿江被為 成候節者御注進式人増

一、上野 御成之節

御中間押 拾貳人
(朱書)
「𡵿人減」
御持鑓役 拾𡵿人
(朱書)
「𡵿人減」
野方御使 九人
御馬牽人 拾貳人
髮卷役 𡵿人
御供組頭 𡵿人

都合四拾六人
「四拾四人」

内 組頭 𡵿人
押 拾貳人
御中間 三十三人
(朱書)

「内押𡵿人減、御中間𡵿人減」
但増上寺 御参詣之節ハ野方御使𡵿人相減申候

一、一橋外明地 御成之節

御中間押 拾貳人
(朱書)
「𡵿人減」
御持鑓役 拾𡵿人
(朱書)
「𡵿人減」
野方御使 拾𡵿人
御馬牽人 拾貳人
髮卷役 𡵿人
御供組頭 𡵿人

(朱書)
都合四拾八人
「四拾五人」

内 組頭 𡵿人
押 拾貳人
御中間 三十五人
(朱書)

「内押𡵿人、御中間式人減」

両国 御乗船二而
一、川筋江 御成之節

御中間押 拾貳人

御持鑓役 拾五人
(朱書)
「𡵿人減」

野方御使 貳拾人
(朱書)

在方出役 七人
「𡵿人減」

御鷹御用 𡵿人
「式人減」

髮卷役 𡵿人
御馬牽人 拾貳人
御供組頭 貳人

都合七拾人
「六拾七人」

内 組頭 貳人
押 拾貳人
御中間 五拾五人
(朱書)

「内御中間三人減」

一、石橋 御乗船
一、川筋 御成之節

御中間押 拾貳人

野方御使

御持鑓役 拾五人
(朱書)
「𡵿人減」
在方出役

[illegible]

陸地 ^二 而			
一、浜御庭江		御成之節	
御中間押	拾貳人	御持鑓役	拾壹人
		(朱書)	「壹人減」
在方出役	三人	野方御使	拾貳人
御馬牽人	拾貳人	髮卷役	壹人
御鷹御用	壹人	表役所出役	貳人
御供組頭	壹人		
(朱書)	「五拾四人」		
都合五拾五人	組頭		
内押	拾貳人		
御中間	四拾壹人		
(朱書)	「内御中間壹人減」		
御中間押	拾貳人	御持鑓役	拾壹人
		(朱書)	「壹人減」
野方御使	八人	御馬牽人	拾三人
御供組頭	壹人		
(朱書)	「四拾四人」		
都合四拾五人	組頭		
	壹人		

内 押 拾貳人
御中間 三拾貳人
〔朱書〕
〔内御中間老入減〕

吹上御庭より

田安
一、清水江
御立寄之節
一橋

御中間押 拾貳人

野方御使 拾五人

髮卷役 〔貳人減〕
〔朱書〕

老 人

都合五拾貳人
〔四拾八人〕

組頭 老 人
押 拾貳人
御中間 三十九人
〔朱書〕
〔内御中間四人減〕

一、御堀廻り
御成之節

御中間押 拾貳人

野方御使 拾 人

髮卷役 老 人

都合四拾七人
〔四拾六人〕
〔朱書〕

御持鍵役 拾七人
〔朱書〕

御馬牽人 六 人
〔貳人減〕

御供組頭 老 人

御持鍵役 拾老 人
〔朱書〕
〔老入減〕

御馬牽人 拾貳人

御供組頭 老 人

組頭 老 人
押 拾貳人
御中間 三拾四人
〔朱書〕
〔内御中間老入減〕

一橋御召場より
御乗船三而
一、品川筋江
御成之節

御中間押 拾貳人

野方御使 三拾老 人

御馬牽人 拾貳人

都合八拾九人
組頭 三 人
内 押 拾貳人
御中間 七拾三人

陸地三而東海寺
御膳所
一、品川筋
御成之節

御中間押 拾貳人

野方御使 十九人

髮卷役 老 人

在方出役 七 人
〔朱書〕

都合六十四人
組頭 老 人
〔六拾三人〕

御持鍵役 廿貳人
在方出役 七 人

髮卷役 老 人

御鷹御用 御供組頭 三 人

御持鍵役 拾老 人
〔朱書〕
〔老入減〕

御馬牽人 拾貳人

御鷹御用 老 人

御供組頭 老 人

押 拾貳人
御中間 五拾人
(朱書)
「内御中間𠵿人減」

御早召三而
一、品川筋・六郷筋江 御成之節

御中間押

拾貳人

御持鑓役

拾三人

野方御使

三十五人

在方出役

七人

御馬牽人

拾貳人

髮卷役

𠵿人

御鷹御用

𠵿人

御供組頭

𠵿人

都合八拾貳人

組頭

内押

御中間

但品川筋三而六郷川端迄御注進申込無之節者拾人相減申候

御中間

一、目黒筋江 御成之節

御中間押

拾貳人

御持鑓役

拾𠵿人

野方御使

拾五人

在方出役

七人

御鷹御用

𠵿人

御馬牽人

拾貳人

髮卷役

𠵿人

御供組頭

𠵿人

都合六拾人

(朱書)
「五拾九人」

一、王子筋 御成之節

御中間押

拾貳人

御持鑓役

拾𠵿人

野方御使

拾五人

在方出役

七人

但根津境内御通拔之節八外三人、都合拾八人

御馬牽人

拾貳人

御鷹御用

𠵿人

髮卷役

𠵿人

御供組頭

𠵿人

志村
中野筋
一、戸田 御成之節

御中間押

拾貳人

御持鑓役

拾𠵿人

野方御使

貳拾人

在方出役

七人

御馬牽人

拾貳人

髮卷役

𠵿人

御鷹御用

𠵿人

御供組頭

𠵿人

都合六拾五人

組頭

内押

御中間

一、浅草筋 御成之節

御中間

五拾𠵿人

御中間押 拾貳人
 御持鑓役 拾壹人
 (朱書)
 野方御使 拾六人
 髮卷役 壹人
 在方出役 七人
 都合六拾壹人
 組頭 壹人
 内押 拾貳人
 御中間 四十七人
 御中間押 拾貳人
 御持鑓役 拾七人
 (朱書)
 野方御使 廿六人
 (朱書)
 「三人減」
 御馬牽人 拾貳人
 御鷹御用 壹人
 御鷹御用 壹人
 御鷹御用 三人
 但追鳥狩之節者
 御扣御用 五人
 (朱書)
 都合八拾三人
 「七拾九人」
 但吹上御供共

一、玉川筋江 御成之節
 御持鑓役 拾壹人
 但御早召之節ハ外貳人、都合拾三人
 野方御使 三拾四人
 御膳所之節ハ外八人、都合四拾貳人
 御中間押 拾貳人
 髮卷役 壹人
 在方出役 七人
 御鷹御用 壹人
 御供組頭 壹人
 都合七拾九人
 組頭 壹人
 内押 拾貳人
 御中間 六拾五人
 御中間押 拾貳人
 御持鑓役 八人
 (朱書)
 「壹人減」
 御馬牽人 拾貳人
 在方出役 七人
 御鷹御用 壹人
 御鷹御用 壹人
 御鷹御用 壹人
 逆井 御上り場揃

一、
新錢座
江
御成之節

市川揃

野方御使御場濟
御供組頭

都合八拾人
〔七拾九人〕
(朱書)

組頭 三人
押 拾貳人
内

御中間 六拾四人

〔朱書〕
「内壺人御中間減」

御中間押
御持鑓役

野方御使
在方出役

貳拾四人
九人

御馬牽人
拾貳人
髮卷役
壺人

人
尪

表役所出役

但新錢座之節八出役無之候

御供組頭

三
人

都合八十六人

内
組頭 三
押 拾
御中間 七
拾人

御召場三ヶ所ニ相成候

一、川筋御成之節

御中間押
御持鑓役

拾貳人
廿貳人

野方御使 在方出役

廿四人 七人

御鷹御用
御馬牽人

髮卷受 卽共且頁

鬘卷後
耄人
三
人

都合八拾貳人

内 組頭 三
押 拾貳人

御中間 六拾六人

右之外兩丸共御小人目付加へ之儀者其都度々々人数増減有之候間
相除キ差上申候、以上

卯十二月

御城内外
御成御供人数書

黒鋤之者頭
御中間頭
御小人頭
御駕籠之者頭

覺

一、紅葉山御宮江御参詣之節

一、紅葉山御宮江御装束二而御参詣之節

一、上野江	御参詣之節	
一、増上寺江	御参詣之節	
一、駒場野江	御成之節	
一、陸地	御成之節	
一、川筋	御成之節	
一、陸地浜御庭江	御成之節	
一、御船三而浜御庭江	御成之節	
一、御屋形江	御立寄之節	
一、西丸江	御成之節	
一、吹上御庭江	御成之節	
一、二丸江	御成之節	
一、三ノ丸江	御成之節	
一、紅葉山	御宮江 御参詣之節	
凡惣人数		
内 貳百拾人程		
御中間御供組頭	貳人	
御使組頭	貳人	
御中間目付	合 廿人	
御小人目付	合 拾人	
御小人押	廿人	
御中間	廿人	
御小人	九拾五人	
御駕籠之者	四十三人	

一、紅葉山	御宮江御装束三而 御参詣之節	
凡惣人数		
内 貳百九十七人		
御中間御供組頭	貳人	
御使組頭	貳人	
御中間目付	合 廿人	
御小人目付	合 拾人	
御中間押	貳拾人	
御中間	九拾五人	
御先練	七人	
御中間	拾五人	
御小人	九拾貳人	
御駕籠之者	三拾五人	
黒鍬之者	廿五人	
一、上野江	御参詣之節	
凡惣人数		
内 三百九拾人程		
但御装束之節者七拾人相増申候		
御中間御供組頭	貳人	
御使組頭	三人	

一、増上寺江 御参詣之節

凡惣人数

四百三拾三人程

但御装束之節ハ七拾人相増申候

内

御供組頭	壹人
御使組頭	三人
御中間目付	合 五十四人
御小人目付	合 廿式人
御中間押	三十人
御小人	百三十九人
御駕籠之者	四十四人
黒鍬之者	百人
但同断	

一、駒場野江 御成之節

凡惣人数

四百八十三人程

内

御供組頭	壹人
御使組頭	三人
御中間目付	合 四十六人
御小人目付	合 廿六人
御中間押	六十七人
御小人	百八十式人
御駕籠之者	三十八人
黒鍬之者	百廿人
外二	
御先御中間御供組頭四人、御馬牽人	三百人程

一、陸地 御成之節

凡惣人数

四百六拾六人程

内

御供組頭	壹人
御使組頭	三人
御中間目付	合 四十七人
御小人目付	合 廿六人
御中間押	五十七人
御小人	
御中間	

一、川筋 御成之節

凡惣人数

四百九十四人程

内

御供組頭 貳人

御使組頭 三人

御中間目付 合 四十五人

御小人押 合 廿六人

御中間 五十壹人

御小人 百七十五人

御駕籠之者 三十八人

黒鋏之者 百五拾人

一、陸地浜御庭江

御成之節

凡惣人数

四百五十五人程

内

御供組頭 壹人

御使組頭 三人

御中間目付 合 三十七人

御小人押 合 廿六人

一、御船ニ而浜御庭江

御成之節

凡惣人数

五百貳人程

御供組頭 三人

御使組頭 三人

御中間目付 合 三十七人

御小人押 合 二十六人

御中間 六十七人

御小人 百七十八人

御駕籠之者 三十八人

黒鋏之者 百五拾人

一、御三卿方御屋形江

御立寄之節

凡惣人数

四百貳拾六人程

内

御供組頭 壹人

御使組頭 三人

御中間目付 合 四十六人

一、西丸江 御成之節

凡惣人数

百廿八人程

内

御使組頭

壹人

御中間目付

合 拾貳人

御小人目付

九人

御中間

六拾貳人

御駕籠之者

貳十三人

御駕籠之者

貳拾壹人

一、吹上御庭江 御成之節

凡惣人数

百廿六人程

内

御使組頭

壹人

御中間目付

合 拾人

御小人目付

九人

御中間

五拾九人

一、二丸江 御成之節

凡惣人数

百廿壹人程

内

御使組頭

壹人

御中間目付

合 拾壹人

御小人目付

九人

御中間

五拾人

御駕籠之者

廿三人

御駕籠之者

廿七人

一、御城内外

御成之節御供人数取調候処凡書面之通御座候、尤

御成御模様ニ寄少々人数増減御座候、委細最前取調差上置

候別帳之通ニ御座候、以上

辰正月

御駕籠之者頭

御中間頭

御小人頭

御駕籠之者頭

天保十三寅年
同 十四卯年

御本丸 御城内并遠 御成之節濡御手当調

天保十三寅年濡御手当調

一、正月十四日西丸江 御成之節

合銀四百四拾九匁

内

黒加賀絹衿羽織

八

御中間目付

八人

黒絹単羽織

拾匁

御中間
拾老人

一、二月五日浜御庭江 御成之節

合銀九百九十四匁

内

茶縮緬衿羽織

壹

御中間御供組頭

壹人

黒絹単羽織

四拾八

御中間
四拾八人

一、三月廿八日吹上御庭江被為 成大的被遊 上覽候節

合銀三百八拾九匁

内

黒加賀絹衿羽織

六

御中間目付

六人

黒絹単羽織

拾匁

御中間
拾老人

一、四月十四日吹上江被為 成円物 上覽之節

合銀三百五拾九匁

内

黒加賀絹衿羽織

五

御中間目付

五人

黒絹単羽織

拾匁

御中間
拾老人

一、四月廿日上野 御参詣之節

合銀壹貫貳百貳拾四匁

内

茶縮緬衿羽織

壹

御中間御供組頭

壹人

黒加賀絹衿羽織

拾四

御中間目付

九人

黒絹単羽織

三拾八

御中間
三拾八人

一、四月三日吹上 御成之節

合銀四百四拾九匁

内

黒加賀絹衿羽織

八

御中間目付

八人

黒絹単羽織

拾匁

御中間
拾老人

一、六月廿日上野 御参詣之節

合銀壹貫貳百五拾四匁

内

茶縮緬衿羽織

壹

御中間御供組頭

壹人

黒加賀絹衿羽織

拾五

御中間目付

八人

黒絹単羽織

三拾三

御中間
三拾三人

一、六月廿一日大川筋 御成之節

合銀貳貫百八拾貳匁

内

茶縮緬衿羽織

貳

御中間御供組頭

貳人

黒加賀絹拾羽織 九人
御中間 七人
黒絹単羽織 拾式人

一、六月朔日 同断
合銀四百九十八匁
内

黒加賀絹拾羽織 九人
御中間 九人
黒絹単羽織 拾式人

一、六月廿五日 右大將様吹上御庭江
合銀三百三拾七匁
内 御成之節

黒加賀絹拾羽織 三人
御中間 三人
黒絹単羽織 拾三人

一、八月五日 同断
合銀四百五拾七匁
内

黒加賀絹拾羽織 七人
御中間 七人
黒絹単羽織 拾三人

一、八月十九日 右大將様浜御庭江
合銀壹貫四百九匁
内 御成雨天ニ而御延引之節

茶縮緬拾羽織 壹人
御中間 壹人
黒加賀絹拾羽織 拾七人
御中間 拾人

黒絹単羽織 四拾三人
御中間 七人
御中間 四拾三人

一、九月廿三日 右大將様王子筋
合銀貳貫貳匁
内 御成之節

茶縮緬拾羽織 壹人
御中間 壹人
黒絹単羽織 六拾人
御中間 六拾人

黒加賀絹拾羽織 廿六人
御中間 拾六人
御中間 拾人

(朱書)
「六貫六百五拾四匁
御本丸分
西丸分
貳口 拾五貫九百匁
金ニして貳百六拾五兩」

天保十三寅年人数調兼候分
御本丸分

二月十五日 西丸江 御成之節
二月廿二日 吹上江 御成之節
三月廿七日 吹上御庭より清水殿亭江 御立寄之節
五月廿七日 吹上江 御成之節
九月十四日 吹上江 御成之節
十一月十一日 西丸江 御成之節
合銀三貫八百六拾三匁 金ニして六拾四兩壹分ト銀八匁

同年

西丸分

正月七日 御本丸江 御入之節

正月廿一日 同断之節

正月廿一日 御簾中様 御本丸江 御年始之節

五月五日 御本丸江 御入之節

八月十一日 玉川筋 御成之節

八月廿八日 吹上江 御成之節

九月朔日 御本丸江 御入之節

十月朔日 御本丸江 御入之節

九月十四日 吹上江 御成之節

十二月五日 御本丸江 御入之節

十二月廿二日 御本丸江 御入之節

合銀七貫九百廿六匁 金ニして百三拾貳兩ト銀六匁

式口合銀百九拾六兩壹分ト銀拾四匁

本文貳百六拾五兩ヲ加ヘ

合銀四百六拾壹兩壹分ト銀拾四匁

天保十四卯年濡御手当調

一、三月十八日於吹上御行列 上覽之節

合銀五百三拾九匁

内

黒加賀絹袷羽織 拾壹

黒絹単羽織 拾壹

一、四月廿九日増上寺 御参詣之節

合銀貳貫五拾匁

内

茶縮緬袷羽織 壹

御供組頭 壹人

御中間 拾壹人

御中間 拾壹人

御中間 拾壹人

御中間 拾壹人

黒加賀絹袷羽織 三十九

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

一、同日

黒絹単羽織 四十式

御中間 四拾貳人

綾縮袷 壹

代銀九拾匁

御供組頭 壹人

一、五月朔日西丸江 御成之節

合銀四百四十九匁

内

黒加賀絹袷羽織 八

御中間 八人

黒絹単羽織 拾壹

御中間 拾壹人

一、六月廿日上野 御参詣之節

合銀壹貫百貳拾匁

内

茶縮緬袷羽織 壹

御供組頭 壹人

黒加賀絹袷羽織 拾四

御中間 七人

御中間 七人

黒絹単羽織 三十式

御中間 三拾貳人

一、七月十日西丸江 御成之節

合銀四百拾九匁

御供組頭 壹人

御中間目付 貳拾七人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

御中間 拾貳人

内	黒加賀絹拾羽織	七	御中間目付 七人
	黒絹単羽織	拾壹	御中間 拾壹人
一、八月廿三日西丸江	御成之節		
合銀四百拾九匁			
内	黒加賀絹拾羽織	七	御中間目付 七人
	黒絹単羽織	拾壹	御中間 拾壹人
一、九月五日西丸江	御成之節		
合銀四百四拾九匁			
内	黒加賀絹拾羽織	八	御中間目付 八人
	黒絹単羽織	拾壹	御中間 拾壹人
一、閏九月九日浜御庭江	御成之節		
合銀貳貫百三拾匁			
内	茶縮緬拾羽織	三	御中間御供組頭 三人
	黒加賀絹拾羽織	廿壹	御中間押 八人
	黒絹単羽織	六拾六	御中間 六拾六人
一、閏九月廿五日於吹上相撲	上覧之節		

合銀九百六拾四匁			
内	黒加賀絹拾羽織	廿貳	御中間目付 貳拾貳人
	黒絹単羽織	拾六	御中間 拾六人
一、閏九月廿七日西丸江	御成之節		
合銀四百七拾九匁			
内	黒加賀絹拾羽織	九	御中間目付 九人
	黒絹単羽織	拾壹	御中間 拾壹人
一、十月九日浜御庭江	御成之節		
合銀壹貫六百拾九匁			
内	茶縮緬拾羽織	壹	御中間御供組頭 壹人
	黒加賀絹拾羽織	廿四	御中間目付 拾五人
	黒絹単羽織	四十三	御中間押 九人
(朱書) 「拾貫七百拾七匁」			御中間 四十三人
天保十四卯年西丸分濡御手当調			
一、二月二日	右大將様上野	御参詣之節	
合銀壹貫百七拾貳匁五分			
内			

綾縞小袖 此代銀百五拾七匁五分	壹	御中間御供組頭 壹人
熨斗目小袖 此代銀壹貫拾五匁	七	御中間 七人
合銀貳貫貳百貳拾五匁		
内		
茶縮緬拾羽織	壹	御中間御供組頭 壹人
黒加賀絹拾羽織	三拾五	御中間目付 廿三人 御中間押 拾貳人
黒絹単羽織	四拾七	御中間 四拾七人
一、二月廿一日 右大將様上野		御参詣天氣相二付御延引之節
合銀壹貫百七拾貳匁五分		
内		
綾縞小袖	壹	御中間御供組頭 壹人
熨斗目小袖	七	御中間 七人
合銀壹貫五百八拾七匁		
内		
茶縮緬拾羽織	壹	御供組頭 壹人
黒加賀絹拾羽織	廿八	御中間目付 廿壹人 御中間押 七人 御中間

黒絹単羽織	三十五	三十五人
一、三月十八日於吹上		右大將様御行列 上覧之節
合銀五百四拾七匁		
内		
黒加賀絹拾羽織	拾	御中間目付 拾人
黒絹単羽織	拾三	御中間 拾三人
一、四月廿八日 右大將様		御本丸江 御入之節
合銀五百拾七匁		
内		
黒加賀絹拾羽織	九	御中間目付 九人
黒絹単羽織	拾三	御中間 拾三人
一、五月二日 同断之節		
合銀四百八匁		
内		
黒加賀絹拾羽織	六	御中間目付 六人
黒絹単羽織	拾貳	御中間 拾貳人
一、五月五日 同断之節		
合銀四百三十八匁		
内		
黒加賀絹拾羽織	七	御中間目付 七人
黒絹単羽織	拾貳	御中間 拾貳人

一、五月十一日 右大將様羅漢寺筋江 御成之節

合銀貳貫貳百九拾四匁

内

茶縮緬袷羽織

貳

御供組頭

貳人

御中間目付

廿壹人

黒加賀絹袷羽織

三拾三

御中間押

拾貳人

御中間

六拾人

黒絹単羽織

六拾

一、五月十五日 右大將様 御本丸江 御入之節

合銀四百六拾八匁

内

黒加賀絹袷羽織

八

御中間目付

八人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、六月朔日 右大將様 御本丸江 御入之節

合銀四百三十八匁

内

黒加賀絹袷羽織

七

御中間目付

七人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、六月二日 同断之節

合銀四百八匁

内

黒加賀絹袷羽織

六

御中間目付

六人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、八月廿三日 同断之節

合銀四百九拾八匁

内

黒加賀絹袷羽織

九

御中間目付

九人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、九月朔日 同断之節

合銀四百六拾八匁

内

黒加賀絹袷羽織

九

御中間目付

九人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、閏九月朔日 同断之節

合銀四百三拾八匁

内

黒加賀絹袷羽織

七

御中間目付

七人

御中間

拾貳人

黒絹単羽織

拾貳

一、閏九月廿五日於吹上 右大將様相撲 上覧之節

合銀四百八拾七匁

内

黒加賀絹袷羽織

八

御中間目付

黒絹単羽織

拾三

御中間

拾三人

(朱書)

「ノ拾三貫五百六拾六匁

御本丸分

西丸分

式口ノ式拾四貫貳百八拾三匁

金ニして四百四兩貳分ト銀拾三匁」

天保十四卯年

御本丸分

二月廿一日吹上江 御成之節

五月廿一日西丸江 御成之節

八月十八日神田橋御住居江 御立寄之節

ノ合銀貳貫九百八拾五匁 金ニして四拾九兩三分

同年

西丸分

五月朔日 御本丸江 御入之節

七月十五日浜御庭江 御成之節

八月廿七日 御本丸江 御入之節

閏九月朔日 御本丸江 御入之節

ノ合銀三貫四百七拾老匁 金ニして五拾八兩ト銀六匁

式口ノ金百七兩三分ト銀六匁

本文四百四兩貳分と銀拾三匁を加へ

ノ金五百拾貳兩貳分与銀四匁